

社会人のための情報システム誌
— 経営近代化のシステム研究 —

Computer Report 7

2012 No.694

3 はじめの言葉

4 企業も国民もうんざり

国会の既得賢者たちのお遊び

田原文夫

大もめの国会／与党民主党である。長年にわたって与野党を問わず国会議員が、選挙演説のたびに公約としてきたのが、国会議員の定数是正（定数削減）である。これを実行できないのは、それが改革であるからだ。実に改革とは、既得権者からの権益奪取である。基本的に自己改革（自己権益の放棄）はできないのである。一方、すべての格差をなくそうという発想が共産主義である。共産主義者を標榜しながら国会議員になると自己権益主義者に様変わりしてしまう。ちょうど共産国家を標榜している国が、共産化に成功した後、自らが特権階級になり、人民を差別し、新たな格差を作り出しているのと同じだ。彼らをノーメンクラトゥーラと言う。民主党による現政権にも、そういう側面が出てきている。消費税は上げて、一体改革の要だった 80 名以上の議員削減案は、いつしかどこかに吹き飛んでしまっている。そういう自分たちの体たらくは顧みないで、地方の財政赤字の解消に精出している大阪の橋下市長を独裁者だと罵る声が現政権からも聞こえてくる。そんな暇があったら自分たちの首切りこそ独裁的に断行して欲しいものだ。とにもかくにも、既得権者に立ち向かい、大阪府と大阪市の二重行政による無駄の削減に取り組もうとしている橋下市長にエールをおくっておこう。

1 1 情報社会を考える その 22

情報社会作りに、どう関与し、どう貢献していくか

編集部

株価で低迷する NEC が新型メインフレームを発表した。これで同社の起死回生がなるとは思えないが、少なくとも、株主優先／証券アナリスト第一の経営から「顧客ユーザー第一」の原点回帰のチャンスとし、コンピュータビジネスの王道を取り戻して欲しい。そこに従事する人材は、我が国の情報社会形成に不可欠である。

1 4 日本再生／世界競争力回復のカギ

何故 M-B I M構築が必要か その 17

水田 浩

企業も国も成功モデルを創るあらゆる機会を求めている。東北大震災の復興という機会を、成功モデルを創る機会とした事例の発表が、2012 年 5 月 10 日、仙台において日本経済新聞主催で開催された「地域から再生する、日本を始めよう」であった (<http://www.nikkei.com/article/DGXZZO41249520Q2A510C1000000/>)。ひとつは、村

田紀敏氏（セブン&アイ・ホールディングス社長）の「小売」から「個売」への成功モデルであり、もう一つは、木川 眞氏（ヤマトホールディングス社長）の「宅急便」から「個急便」への成功モデルの発表であった。

2 0 連載 アーキテクチャ論 (15)

SOA ガバナンス

山本修一郎

国立大学法人 名古屋大学 情報連携統括本部 情報戦略室 教授

今回は、SOAガバナンス（Service Oriented Architecture Governance）について解説しよう。カーネギーメロン大学（CMU）のソフトウェア工学インスティテュート（SEI）のSimantaらは、SOAガバナンスを次のように定義している。

「サービス指向システムを開発、利用、発展させ、システムのビジネス価値を分析するためのポリシー、規則、実施機構の集合がSOA ガバナンスである [1].」

クラウドサービスも典型的なサービス指向アーキテクチャであるから、SOAガバナンスが必要である。2012年6月に、クラウドサービスを利用する企業の顧客情報が全消失するという事件が発生した。SOAガバナンスの定義に従うと、この事件では、クラウドサービス提供企業と、クラウドサービス利用企業の両方で、「クラウドサービスを利用、発展させ、システムのビジネス価値を分析するためのポリシー、規則、実施機構」が、どのように定義されていたか、気になるところである。またクラウドサービスでは、稼働率100%というサービス提供条件を提示していたようだが、それを利用企業はどのように確認して、クラウドサービスへの移行を判断したのかも、気になる。いずれにしろ、日本でも、今後SOAガバナンスの重要性が認められていくことになるだろう。

2 8 改めて確認したいサイト運営のリスク

丸投げアウトソーシングに潜む脅威

aism

SNS を利用したネットコミュニティ作りは、今が旬である。期待が大きいだけに、その効用だけが注目されている。SNS 活用に潜在するリスクを想定すると、基本的にサイト運営そのものに潜むリスクが改めて浮かび上がってくる。自社のサイト運営をひとつ間違えると、思わぬリスクを誘発する恐れもある。検証段階でサイト運営を外部の業者に丸投げアウトソーシングしている事例もあった。リスク回避と他人任せでの責任逃れとは、似て非なるものではない。まったく別ものである

3 3 ものの造れる日本再生に向けて 第二／第三の創業へ

Dr.ベスト

第 10 回 リストラクチャリングと

ナレッジマネジメント（価値創造）の関係（1）

1970 年代のオイルショック後の 1980 年代は「激動の時代」と予測されたが、実は、「ジャパンアズ No1=No1 としてのニッポン」という、今にして思えば黄金期だった。その黄金の夢が一気に醒めたのが、1991 年のバブル崩壊という悪夢からの出発だった。そしてそれは、さらに厳しい姿勢で日本全体の産業界のリストラクチャリングに挑戦する時代の幕開きだった。まさに温故知新である。新興国にはない一企業の枠を超えたリストラクチャリングの歴史をひもといてみよう。鉄鋼、造船、エンジニアリング、自動車、電気・電

子業界の動向を追いながら、これからの日本再生に向けて踏み込んだ展望をしてみたい。

3 7 IT 新時代とパラダイム・シフト

第 3 4 回 サイバー空間を戦場にした

スタックスネットの脅威

根本忠明

この 6 月 26 日、日本で成立した著作権改正に抗議する国際的なハッカー集団アノニマスが、日本政府および関連のサイバーサイトにハッキング攻撃を仕掛け話題になっている。それに先駆けて 6 月 1 日、アメリカニューヨーク・タイムズ紙は、アメリカ／イスラエルが、国家戦略としてイランにサイバー攻撃を仕掛けていたことを明らかにした。「マルウェア」という悪意プログラムを駆使したものだが、何と言ってもショッキングなのは「アノニマス＝匿名」者によるハッキングではなく、正規の国家／政府による他国への攻撃作戦だった点である。

4 1 続インテリジェンスへのいざない 30

主観と客観からの情報活用(2)

今井 武

インターネット上にいくら大量のデータ／情報が流れていようとも、活用するための情報分析能力がなければ意味はない。情報処理に要求されるのは人間の主観能力である。その主観をいかにして客観性を持たせることができるか。ポイントは、そこにある。

4 4 一味違うウェブ検索

第二十四話 資料のチェック①

記載内容と未記載内容のチェック ぐうのうえぶへい

これまでネット上から、如何にして一味違うネタ探しをするか、そのための検索ポイントを紹介してきた。今回からは、こうした検索によって入手した情報／資料の記載内容のチェックポイントを紹介しよう。特に、資料に記載されている内容と記載されていない内容のチェックについてから言及してみよう。

4 7 連載 ことわざ笑タイム

すぎやまチヒロ

☆☆

WebCR 編集部からのお知らせ

本誌に連載／掲載されている記事に関するご質問、ご意見をお待ちしております。近い将来に予定されているプロジェクトに先立って不安や問題点の確認をなされたい方、現在進行中のシステムのプロジェクトマネジメントにおけるトラブル関連など、何でも結構ですので、下記メールアドレスまでお寄せ下さい。

cr-info@jmsi.co.jp

☆☆

セミナー／講演会の講師紹介

ユーザー会/各種研究会/勉強会における
セミナー/講演会での講師をご紹介します。

クラウドサービス導入前のチェックポイント

クラウドサービスは果たしてTCO削減に寄与するか

レガシーマイグレーションの進め方と留意点

これからの企業情報システム構築のポイント

これからの金融情報システムの課題

役に立つ情報管理の実践と課題

情報セキュリティ監査の受け方／臨み方

リポジトリベースのシステム資源管理

その他 クラウドサービス導入にお悩みの方

など 各種コンサルティングも承ります

ご質問／何でも相談は下記まで
株式会社 日本経営科学研究所
ComputerReport編集部

cr-info@jmsi.co.jp

CR 選書のご案内

CR選書

改訂版
データ・ウェアハウス

定価 本体 2,816円+税 送料(〒300) A5版 289頁 石井義興 著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 目録が必要としているデータ	第七章 情報システム部門しかできないデータ・ウェアハウスのサポート
第二章 データベースとデータ・ウェアハウスの構造と	第八章 データ・ウェアハウスの構築とデータ移行ツール
第三章 OLAP用のデータ・ウェアハウス	第九章 データ・ウェアハウスの利用とエンドユーザーツール
第四章 リレーショナル・モデルとネステッド・リレーショナル・モデル	第十章 データ・ウェアハウスの保守とオートメーション
第五章 正規化の問題点とデータ・ウェアハウス	
第六章 データ・ウェアハウス管理システム	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

実践データ・ウェアハウス OLAP

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A5版 249頁 豊島一政・木村 哲 共著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 これまでのEUCIでできなかったこと	第七章 多次元データベースを作る
第二章 OLAPの定義	第八章 多次元データベースの構造
第三章 Code博士によるOLAPプログラムの評価ツール	第九章 多次元データベースとアプリケーション
第四章 分析処理の歴史	第十章 OLAP/サーバーとフロントエンド
第五章 OLAP(多次元データベース)の形	第十一章 OLAPアプリケーションパッケージ
第六章 データウェアハウスとOLAP	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

消費者行動論

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 181頁 田原文夫 著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 消費者行動論	第四章 消費者意志決定
第二章 消費者行動と心理的決定要素	第五章 消費者行動トピックス
第三章 消費者行動と社会的決定要素	第六章 人間であること(人間行動トピックス)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

aism 研究活動報告
インターネットセキュリティの落とし穴

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 197頁 一橋大学教授 安田 聖 監修 aism情報セキュリティ・マシントリプル研究会 著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 落とし穴を回避するための基礎テクノロジー	第十一章 WORM、KLEZの監視と駆除記
第二章 aism情報セキュリティマシントリプル研究会の発足	第十二章 メールが通らない
第三章 認知される電子署名方式の基本原則	第十三章 生体ネット運用のための情報オーナーの建設
第四章 世界を駆けめぐったCodeRedワーム	第十四章 最近のインターネット防衛戦線心得
第五章 情報システムにおけるリスク	第十五章 ITガバナンスの意識と情報セキュリティ対策
第六章 情報漏洩対策	第十六章 情報セキュリティ対策とセキュリティ教育
第七章 VPN(バーチャルプライベートネットワーク)	第十七章 ケーススタディ「情報セキュリティ教育」
第八章 aismの2012年度の事業計画	第十八章 セキュリティポリシー作成にあたってのノウハウ
第九章 情報セキュリティ情報研究会の発足と課題	
第十章 インターネット関連の苦情と不正アクセス	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

エンタープライズ情報システム設計の基本書！
トップ主導の情報システム革新

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 271頁 高田 顯重 著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 情報システム利用環境の変遷と今日的課題	第五章 情報システム監査
第二章 経営活動と情報システム	第六章 情報システム部門の体制革新
第三章 経営情報システム革新の方向	第七章 情報システムの成果評価
第四章 トップ主導の情報システム開発	第八章 変化対応のシステム作り

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

計量モデルの構造と解法
—オーダーリングとスパース—

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 213頁 安田 聖 著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一部 計量モデル	第二部 大規模モデルの効率的解法
第一章 計量モデルと計量モデルの解法と歴史	第五章 計量モデルの分割方法
第二章 線形計量モデルの解法	第六章 方型式のオーダーリング
第三章 非線形計量モデルの解法	第七章 大規模モデルの解法
第四章 反復法の問題点	第八章 スパース
付録・電子計算機の高速化と計量方法	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

『いざ！というときの得広報』
すぐに役立つ実践117カ条

定価 本体 1,748円+税 送料(〒300) A5版 228頁 加藤洋一 著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

■ 広報ビジネスの前提条件	■ 売定文化企業体質
■ ニュースリリースは東方向運賃	■ 守るも攻めるも広報が窓口
■ 活字媒体の特性をチェックする	■ あなたならどう対応する「事例編」
■ 記事の材料(ネタ)と発表のテクニック	<付> 記事とうまく付き合うための鉄則(まとめ)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

ザ・ワールドリンク
がんばれ、国際グローバルサーバー—
IBM社に挑んだ国際情報システム作りの物語

定価 本体 1,848円+税 送料(〒300) A5版 268頁 迫 忠幸・湯浅 誠 共著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 発端	第十一章 日本開港手続の違い
第二章 あるプロジェクト	第十二章 米軍チーム撤退の危機
第三章 新しいシステムへの働き	第十三章 新たな仲間
第四章 WOOIに向けて	第十四章 米軍撤退所帯と新たな組み
第五章 FJO、IBM競争	第十五章 開港手続とハンタツ
第六章 日本プロジェクトチームの発足	第十六章 ユーザー教育
第七章 プロジェクト開始	第十七章 日本運用体制と本番後日誌
第八章 米軍チーム立ち上りの流れ	第十八章 既存システムとのデータ交換の問題
第九章 大きな壁、英語コミュニケーション	第十九章 稼働時の一 直前、稼働、直後の苦しみ
第十章 米軍チーム、異なる三人組	第二十章 稼働時の二 安定期間と北米センター移設

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp